

経営体育成基盤整備事業

土地改良事業計画概要書

(区 画 整 理)

第1回計画変更

県 名 岩 手
地 区 名 真 奥 北
所 在 地 奥 岩 市
事 業 主 体 岩 手 県

土地改良事業計画概要書

— 目 次 —

第1章	目的	1
第2章	地域の所在及び現況	1
第1節	地域の所在	1
第2節	現況	2
第3節	水利状況	4
第4節	営農の状況	4
第5節	地域環境の概況	5
第3章	基本計画	6
第1節	計画の要旨	6
第4章	工事又は管理の要領	7
第1節	工事の施工計画	7
第2節	管理の要領	7
第3節	予定工期	7
第5章	換地計画の要領	7
第1節	換地計画樹立の必要性	7
第2節	換地計画樹立の基本方針	7
第3節	土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積	8
第4節	非農用地の換地方法	9
第6章	費用の概要	10
第7章	効用	11
第8章	他の事業との関係	11
第9章	計画概要図	12

第1章 目 的

上段：変更後

下段：変更前

奥州市水沢南部

〃

本地区は、奥州市水沢区南部に位置し、胆沢扇状地の東部に拓けた岩手県を代表する穀倉地帯である。

本地区の水田整備状況は、昭和30年代の積雪寒冷地帯土地改良事業胆沢平野地区により整備されてはいるが、区画は10aと小区画であり農道も1.5m～2.0mと狭少なため、農業用機械の作業効率の低下をきたしている。また、水路は用排兼用の土水路が多く、断面が狭小で深さも浅く十分な排水機能を果たしていないため、水田の汎用化が行えない状況にある。これらのことから、効率的な農業生産を行うことが困難であり、担い手の育成及び農地集積の妨げになっている。

以上の問題を解決するため、本計画により高生産性ほ場を造成し、大型農業用機械による営農の効率化を図るとともに、担い手への農地集積を促進し、農業経営の安定を図るものである。

地 積

(単位：ha)

現況地目 市町村名	水 田	普通畑	樹園地	計	道水路等	その他	合 計
奥 州 市	73.6	〃	〃	74.6	8.6	0.3	83.5
	73.2	1.0	—	74.2	8.1	0.4	82.7

※その他 鉄道用地含む

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域の所在

岩手県 奥州市水沢真城、姉体町地内

岩手県 奥州市水沢区真城、姉体町地内

第2節 現 況

上段：変更後
下段：変更前

第1項 地形及び地質、土壌

本計画地域は、奥州市役所より南南東へ約5km程度に位置する水田地帯である。
 地形は東西に1/200程度、南北に1/170程度の傾斜をなしており、標高は44m～37m程度である。
 地質は胆沢扇状地の扇端部に位置する沖積層地帯であり、母材は、非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。土壌は、グライ土壌強粘土構造型（E40）、灰褐色土壌強粘土構造型（G60）、黄褐色土壌壤土マンガン型（I83）の3種類である。

第2項 気 象

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成31年3月版)
 (岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版)

(1) 一般気象

観測所名	若柳気象観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	H20～H29年 H15～H24年	〃 月 ～ 〃 月 5 月 ～ 8 月	〃 月 ～ 〃 月 9 月 ～ 4 月		
平均気温 (℃)		20.2 19.9 ℃	〃 6.2 ℃	10.9 10.7 ℃	
降水量	平均 (mm)	527.8 579.6 mm	770.4 755.0 mm	1,298.1 1,334.6 mm	
	基準年 (mm)	〃 — mm	〃 — mm	〃 — mm	
降水日数	平均 (日)	43 47 日	94 99 日	137 146 日	
	基準年 (日)	〃 — 日	〃 — 日	〃 — 日	
根雪期間		〃 月 〃 日 ～ 〃 月 〃 日 — 月 — 日		〃 日間 — 日間	
無霜期間		〃 月 〃 日 ～ 〃 月 28 日 4 月 30 日		182 日間 180 日間	
最多風向		〃 S	最大風速 (風向)	19.8 15.3 m/s (〃) W	最多風向発生時期 年 月 日 最大風速発生年月日 2018年3月2日 2013年3月2日

※ 最大風速のデータは気象庁のホームページによる。

(2) 特殊気象

上段：変更後

下段：変更前

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成31年3月版)

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版)

観測所名	第1位 1位			第2位 2位			第3位 3位			第4位 4位			第5位 5位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率										
若柳気象観測所																
観測期間																
M41年～H29年 M41年～H24年																
最大日雨量 (mm) M41年～H29年 M41年～H24年	280	S23 9/16	1/387 1/424	249	T9 8/9	1/187 1/197	221	T2 8/27	1/93 1/95	212	M43 8/14	1/74	210	T11 8/24	1/70	
最大時間雨量 (mm) S37年～H29年 S51年～H24年	40	S53 8/8	1/34 1/33	38	H19 9/10	1/24 1/23	35	H19 5/31	1/14	35	S57 9/12	1/14	34	H13 7/4	1/12 1/11	
最大4時間雨量 (mm) S37年～H29年 S51年～H24年	84	S56 8/12	1/52 1/45	80	H14 7/11	1/33 1/30	79	H14 7/11	1/30 1/27	77	H17 6/27	1/24 1/22	75	H17 6/27	1/19 1/18	
最大3日連続雨量 (mm) M41年～H29年 M41年～H24年	389	T9 5/9	1/503 1/469	362	T9 8/10	1/304 1/283	334	T9 5/8	1/177 1/165	312	T9 8/9	1/114 1/106	305	M43 8/15	1/99 1/92	
最大連続旱天日数 (日) M41年～H29年 M41年～H24年	52	S21 7/11	—	47	H6 7/3	—	35	S53 7/4	1/230 1/198	35	S18 6/19	1/230 1/198	33	S24 7/16	1/101 1/90	

第3節 水利状況

上段：変更後
下段：変更前

第1項 用水状況

本地区の幹線用水路は、胆沢ダムを水源とする一級河川胆沢川より若柳頭首工にて取水し、円筒分水工の下流にある国営胆沢平野農業水利事業及び県営農業用水再編対策事業胆沢平野地区で整備された茂井羅南堰系統の茂井羅南堰用水路及び鶴巻用水路、寿安下堰系統の寿安下堰及び堤尻水路である。

地区内の小用水路は、土水路で断面も一定ではなく、用排兼用となっている。そのため、土壌浸透による用水の損失や、法面の崩落等による通水障害も生じており、水管理及び維持管理等に多大な労力と経費を費やしている。

第2項 排水状況

本地区の排水は地区内の小排水路を流下し、茂井羅南堰排水路、沢田水路、鶴巻水路、堤尻水路へ排水される。

地区内の小排水路は、水路底が浅く地表排水のみが排水可能であるため、水田の汎用化が行えない状況である。また、土水路で断面も一定ではなく、法面の崩落等による通水阻害も生じており、維持管理に多大な労力と経費を費やしている。

第4節 営農の状況
専業別農家数及び平均経営耕作面積

2020農林業センサス
2010農林業センサス

戸数		項目	専業	第一種	第二種	計	一戸当たり平均経営耕作面積	田	普通畑	その他	計	地域指定等
				兼業	兼業							
専業別	奥州市	戸数	1,861 戸	1,377 戸	6,210 戸	9,448 戸		1.6 ha 1.4 ha	0.2 ha 0.1 ha	0.0 ha 0.1 ha	1.8 ha 1.6 ha	農業振興地域整備計画S45.3.31
		割合	19.7 %	14.6 %	65.7 %	100 %		88.9 % 87.4 %	11.1 % 6.3 %	0.0 % 6.3 %	〃 % 100 %	広域営農団地整備計画S52
	本地区	戸数	13 戸	25 戸	83 戸	121 戸		〃 ha 0.6 ha	〃 ha 0.0 ha	〃 ha - ha	〃 ha 0.6 ha	野菜産地指定計画H6.5.30
		割合	10.7 %	20.7 %	68.6 %	100 %		〃 % 100 %	〃 % 0.0 %	〃 % - %	〃 % 100 %	酪農・肉用牛生産近代化計画H9.1

上段：変更後
下段：変更前

経営農用地広狭別農家数

2020農林業センサス
2010農林業センサス

区 分	農 家 総戸数	経営農用地広狭別農家数								耕地の分散状況		一戸当たり 平均耕地面積	
		0.5ha 未満	0.5ha ～ 1.0ha	1.0ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2.0ha	2.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上		自給的 農家	一戸当たり 団地数		団地当たり 面 積
〃	8,121	-	-	-	-	-	-	-		2,109	〃	a	a
奥州市	11,582	1,216	2,755	1,974	1,246	1,243	638	376		2,134	-	-	165

第5節 地域環境の概況

〃

本地域は、水環境が多様で豊かな生態系が存在している。自然の川はなく、農業用排水路が横断し、県内有数の穀倉地帯を潤している。また、地域内には、「環境省レッドリスト」及び「いわてレッドデータブック」に登載されている希少種及び希少種の食餌動植物等生育・生息に不可欠な種、良好な環境の指標となる種の生育・生息が確認されている。

地域ではそれらの生態系に配慮し、水路の維持管理に取り組んでいる。

第3章 基本計画

上段：変更後
下段：変更前

第1節 計画の要旨

本計画により高生産性ほ場を造成することにより、区画形質の改善、用排水路と農道の整備、換地による農地の集団化を総合的に実施し、農業生産性の向上をめざす。また、暗渠排水を施し、農地の汎用化を促進して、農作業効率の向上を図るとともに土地の生産性を高める。

環境との調和への配慮として、地域で生息・生育が確認されている動植物の生態環境への負荷の低減に努め、現況保全すること等により、環境への改変を最小限にするよう努めることとする。

事業計画一覧表

種 別	事 業 量	摘 要
区 画 整 理	整地工	70.0 ha 70.4 ha 表土扱い A=70.0 ha 表土扱い A=70.4 ha
	道路工	11,025 m 8,963 m 砂利道 B=5.0 (4.0)、B=4.0 (3.0)、B=3.0 (2.0)
	用水路工	10,514 m 12,203 m 管水路(塩ビ管) 100~300m/m
	排水路工	13,110 m 12,326 m 鉄筋コンクリート排水フリューム水路 300×300~900×900 ~2000×1500
	暗渠排水工	69.6 ha 70.3 ha 吸水渠H=0.6m φ50~60m/m、集水渠 H=0.6m φ50~65m/m

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の施工計画

- ”
1. 工事は、全て県営事業により行い、請負工事とする。
 2. 施工は、農業土木工事共通仕様書による他、特記仕様書による。

第2節 管理の要領

”

施工後の諸施設の管理は、農業用道路の管理は奥州市、農業用排水施設の管理は胆沢平野土地改良区が行う。

第3節 予定工期

” 令和6年度
平成28年度～平成33年度

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

”

地区内は、小区画水田(10a)で農道幅員1.5m～2.0mと狭小であり、大型農業機械の有効活用や農産物の円滑な搬出に支障をきたしているほか、地区内の用排水路は老朽化し維持管理に労力を要している。また、地区内の農地が分散錯画しているため、集落営農や担い手の営農の効率化及び規模の拡大に支障をきたしている。

このような状況を解消し、効率的かつ省力的な営農を展開するため、ほ場整備を行うとともに、換地による集団化を図り、農業生産法人及び担い手への作業受委託の促進、拡充を図り、担い手中心の生産性の高い農業を実現できるように換地計画を樹立する必要がある。

第2節 換地計画樹立の基本方針

第1項 従前地の地積の基準

”

換地交付の基準とする従前土地の地積は、土地改良事業計画の決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から1年以内に土地家屋調査士の測量した実測図に、隣接所有者の承諾書を添付して申出があった場合は、その申出地積とする。

上段：変更後
下段：変更前

第2項 農用地集団化の方針

区分 換地区	地帯別グループ 別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取り扱い
// 真城北	// 集落別集団化	// 予め特殊地の選定を行なった後、各戸の従前の土地が最も密集した位置を基本とするが、育成すべき担い手の経営農用地を中心として集積が図れるように配慮する。	// 1～2団地	// 固定畦畔

第3項 清算の方法

//
比例地積清算方式

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

(単位：ha)

用途	公用公共用地				一般国有地	合計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
公衆用道路			4.1 4.2	4.1 4.2		4.1 4.2
計			4.1 4.2	4.1 4.2		4.1 4.2

第4節 非農用地の換地方法

〃
該当なし

上段：変更後
下段：変更前
(単位：㎡)

換地区名	区分	用途	非農用地区域の位置の概略	面積(㎡)	換地の手法	換地取得 予定者	その他
計							

上段：変更後

下段：変更前

第6章 費用の概要

単位：千円

事業名	総事業費		負担内訳				備考
	費目	金額	国費 (50%)	県費 (30%)	地元負担 (20%)		
					市町村 (10%)	農家 (10%)	
〃 経営体育成基盤整備事業	事業費	1,684,000 1,430,000	842,000 715,000	505,200 429,000	168,400 143,000	168,400 143,000	
	費目	金額	国費 (0%)	県費 (100%)	地元負担 (0%)		
〃 (区画整理)	工事雑費						
	事務費						
	計	1,684,000 1,430,000	842,000 715,000	505,200 429,000	168,400 143,000	168,400 143,000	

上段：変更後
下段：変更前

第7章 効用

区 分	全 体 (千円)		区画整理 (千円)		備 考
	便 益 額	所 得 額	便 益 額	所 得 額	
農業生産向上効果 (作物効果)	29,783 30,728	△ 1,076 △ 1,723	29,783 30,728	△ 1,076 △ 1,723	
農業経営向上効果 (営農経費)	131,866 110,369	134,576 112,792	131,866 110,369	134,576 112,792	
農業経営向上効果 (維持管理)	△ 1,777 △ 1,162	2,108 2,290	△ 1,777 △ 1,162	2,108 2,290	
生産基盤保全効果 (更新効果)	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	
生活環境整備効果 (非農用地等創設効果)	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	
農業の持続的発展に関する効果 (耕作放棄防止効果)	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	
その他効果 (国産農産物安定供給効果)	2,701 2,515	〃 -	2,701 2,515	〃 -	令和4年度単価 平成27年度単価
合 計	162,573 142,450	135,608 113,359	162,573 142,450	135,608 113,359	〃 総費用総便益比＝ 1.59 1.52

第8章 他の事業との関係

区分	事 業 名	事業主体	受益面積	工 期	事業費 (百万円)	前年度までの 進 捗 率	事業との関連
異 種	〃 国営胆沢平野農業水利事業	〃 国	〃 9,830 ha	〃 S58～H10	〃 27,241	〃 100 %	〃 基幹用排
	〃 県営農業用水再編対策事業胆沢平野地区	〃 岩手県	〃 8,835 ha	〃 H1～H19	〃 29,850	〃 100 %	〃 基幹用排

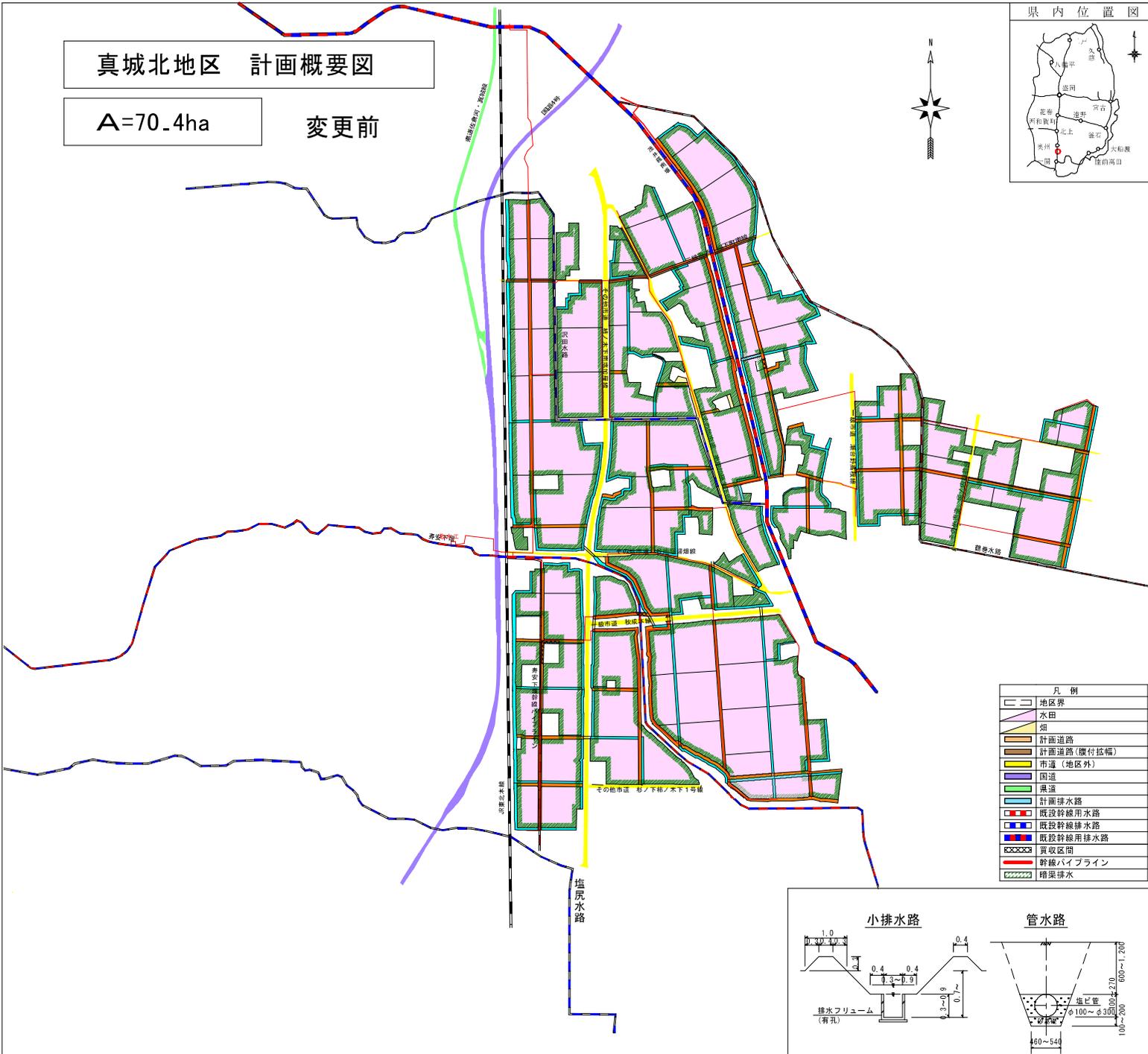
第9章 計画概要図

〃
次 項

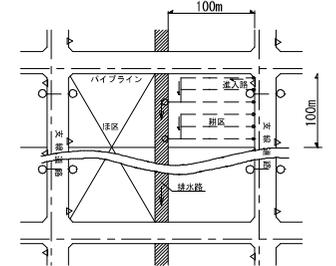
真城北地区 計画概要図

A=70.4ha

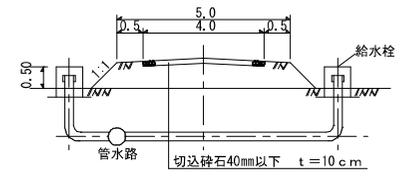
変更前



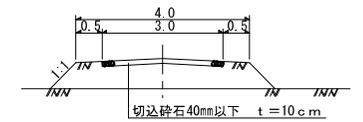
標準区画



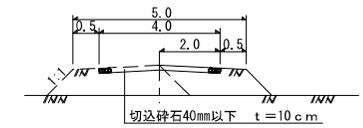
支線道路A



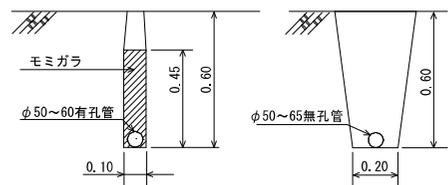
支線道路B



支線道路C(拡幅)



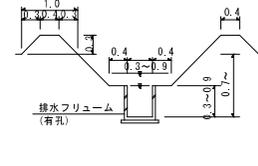
ドレンレイヤー標準図



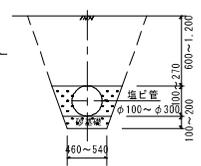
集水渠断面図



小排水路



管水路



暗渠排水

